

# 魚病等実態把握指導\*

小川 健・木村 創

水産増養殖の急速な進展に伴ない、魚病による被害が増大し、水産増養殖の一層の推進を図る上で大きな問題となっている。このため、種々の魚病に対する防疫措置および水産用医薬品の適正使用の指導を行い、魚病の発生および蔓延を防止し魚病被害を軽減化させるとともに食品として安全な養殖魚生産の確保を図ることを目的に、国の魚病対策事業に基づき国庫補助を受けて、魚類防疫対策事業、魚病関連機械器具等整備事業および水産用医薬品指導事業を実施した。

各事業の概要は次のとおりである。

## 1 魚類防疫対策事業

### 1) 防疫会議等

#### (1) 防疫会議

表1のとおり県内防疫会議を開催し、ブリの連鎖球菌症およびモジャコ腹水症対策について検討した。

表1 防疫会議開催状況

年月日	開催場所	主な構成員	主な議題
85. 4. 16	西牟婁郡串本町	水産課 水産増殖試験場 水産業改良普及員 県かん水養魚協会 各地域防疫検討会代表	ブリ連鎖球菌症およびモジャコの腹水症対策について

#### (2) 防疫検討会

検討会は表2のとおり開催し、昨年秋に中部海域で発生し大きな被害をもたらし、本年10月には南部海域でも発生のみられた養殖マダイの織毛虫症（白点病）対策について検討した。

表2 防疫検討会実施状況

対象海域	年月日	開催場所	主な構成員	主な議題
北部・中部	'85. 10. 17	西牟婁郡白浜町 堅田漁協	水産課 水産増殖試験場 水産業改良普及員 関係漁協 海面養殖業者	養殖マダイの織毛虫症（白点病）対策等について
南部・東部	'85. 10. 11	西牟婁郡串本町 大島漁協	同上	同上

\* 魚病等実態把握指導費および魚病指導総合センター設置費による。

2) 防疫対策定期パトロール

魚病の適切な予防治療対策の指導および漁場の防疫監視のため、毎月1～2回、各養殖地域のパトロールを実施した。

3) 魚病発生時の緊急対策

なし

4) 魚病発生防止対策

(1) 養殖場の定期観測

'85年4月から'86年3月まで毎月1回、各海域の養殖漁場1～2ヶ所で、水温、DO、塩分量、透明度を測定した。

(2) 魚病情報の収集・伝達

モジャコ腹水症、マダイの繊毛虫症（白点病）および天然ボラの粘液胞子虫症について県内および他県の発生状況等を県内養殖業者、漁業協同組合、南西海区水産研究所の間で収集・伝達を行った。

5) 種苗の魚病検査

養殖用種苗を対象に、ブリ12件、マダイ8件の魚病検査を行った。ブリでは8件がピブリオ病、3件が類結節症で、マダイでは3件がピブリオ病であった。残りのブリ1件、マダイの2件からは細菌・寄生虫は検出されなかった。

6) 魚病講習会

本年度は内水面関係で実施され、海面関係は実施しなかった。

2 魚病関連機械器具等整備事業

本年度当初予算で和歌山県魚病指導総合センター設置事業を計上し、当整備事業を実施した。 $\frac{1}{2}$  国庫補助により、魚病関連機械器具類51品目62点を総額25,608千円で購入、整備した。

3 水産用医薬品指導事業

1) 医薬品適正使用対策

水産課にて実施。

2) 医薬品残留検査

出荷のために水揚げされる養殖ブリを対象に、背部筋肉中の医薬品残留検査を行った。結果は表3に示すとおり、医薬品の残留は認められなかった。

医薬品残留分析は、財団法人日本冷凍食品検査協会に委託し、同協会神戸事業所で分析を実施した。

表3 ブリ筋肉中の医薬品残留検査結果

対象魚種	対象海域	対象医薬品等の名称 (成分名)	検体採取 年 月 日	検体数	分析結果
ブリ1年魚	東 部 海 域	エリスロマイシン	'85. 12. 24	9	全て検出せず
ブリ1年魚	南 部 海 域	〃	'85. 12. 25	8	〃
ブリ1年魚	中 部 海 域	オキシリン酸	'86. 1. 7	8	〃